**Ⅶ　現職教育の計画**

１　学校研究

（１）研究主題　　**「よりよく関わり合いながら，確かに学ぶ授業創り」**

**～私には、伝えたいことがある！Let’s enjoy [Ing] !～**

（２）主題設定の理由

　　学校は「学び舎」である。

「学び舎」で学ぶことに、本来楽しさ（enjoy）を覚えなければならない。

　「学び舎」には様々な教育活動が設定されているが、その中心は「授業」である。児童自身が学ぶことに対して有用感や達成感を味わうことを実現させていくことは極めて重要である。

しかしながら、児童は個の学びだけに楽しさを覚えるのか。そうではない。児童は相手と関わり合うことで楽しさを覚えていくのである。例えば、自分の考えがもてなかったときに、相手と関わることで既習を想起し考えをもつことができる。また、考えをもてたとしても相手との関わり合いながら自らの考えを再構築し、より洗練させたりすることができるのである。つまり、児童自身の学びの心の中に「気づき・変容・新たな疑問」をはじめとした新しい学びの世界が生まれるのである。

「自己（I）」の学びに「相（I）手意識」、そして「愛（I）情」を児童自身が学んだことが進行（Ing）し続けていくことは、児童の未来の学びにつながる。

昨年度も、研究教科の中心を算数科に据え、児童が相手と関わり合いながら複数の条件・情報を関連付けながら学び、表現することを重視してきた。しかしながら、現状は相手と関わり合いながら学ぶ有用感や達成感を十分に味わっているとは言えないことが検証からもうかがえる。また、個々のレベルでは、教科用語を適切に用いて説明できたり、自分の考えと相手の考えを関連付けることができたりする姿は見られるが、全体としては十分とは言えない。

これは、授業者が児童に必然性のある課題設定や思考を揺さぶるような発問をはじめとして、関わり合いながら、試行錯誤し、個の確かな学びへとつながっていく授業を十分に展開できていないことが大きな要因をしめる。

だからこそ、教職員全員が授業創りに携わることができ、系統性のある教科「算数科」を今年度も研究の中心教科とし、指導者と児童、児童と児童がともに「話す・聴く・書く・読む」ことを通して、よりよく関わり合い、学ぶことに楽しさを感じる授業を教職員もよりよく関わり合いながら創り上げていく。

自分の考えと相手の意見や複数の条件・情報などを関連付けながら考えを深め，根拠や理由，筋道を明確にする言語活動を積み重ね続け、児童一人ひとりが伝え合う力を高めていくことは「確かに学ぶ本校児童の姿」に辿り着く。

更には、児童の人間関係を深めるための基盤となる学級経営に努め，共感的理解に基づく人間関係づくり，道徳性の育成を基盤におくことも重要視し、児童自身が友達とともに学んだ価値を味わえる授業を創造していく。

（３）研究の仮説

算数科を中心教科とし，言語活動の充実を図る授業実践と継続的な授業改善の取組は、児童の「話す・聴く・書く・読む」力を育み、よりよく関わり合いながら学ぶ楽しさを味わい、確かな学びへとつながるだろう。

（４）研究構想図

言語環境の整備【ノート検定、ノート紹介、リテラシータイム、読書活動、全校集会等】

学習基盤【ペタピントン目力、着ベル、声で反応、学習用具、忘れ物０運動等】

学級経営の充実【学級活動、特別の教科道徳、学年行事、学校行事、全校集会等】

家庭・地域との連携、保小中との連携

【めざす児童像】

**☆進んで学習し、確かな学力を身につけた子**

☆進んで挨拶し、自律と思いやりをもった子

☆進んで運動し、健康でたくましい体をもった子

【よりよく関わり合うツール】

教科用語・数の線・式・グラフ・表・アレイ図・図形・具体物・半具体物・既習内容・児童の算数的な背景知識

【よりよく関わり合うツール】

教科用語・数直線・線分図・式・グラフ・表・図形・変化・具体物・半具体物・既習内容・児童の算数的な背景知識

【よりよく関わり合うツール】

教科用語・数直線・式・グラフ・表・図形・数値・変化・具体物・半具体物・既習内容・児童の算数的な背景知識

相互授業参観・模擬授業・研究授業・校内研修

～「学びの指針１２か条＋」「学力向上ロードマップ」「学力向上プラン」～

〇互いに関わる必要感が生まれる授業創り　　　　　 【課題設定・問い返し・揺さぶり】

〇算数科を中心にした3問スタイルによる授業展開　　　 　　　　【基本→活用→適用】

〇話す視点の明確化　　　　　　　　【何を話し合い、話し合うことで何が分かるのか？】

〇児童の思考の流れが見える構造的な板書　　　　　 　【児童とともに創り上げる板書】

〇自己変容を感じる授業創り　　　　　　　　　　 【確かな理解、新たな気づきや疑問】

〇既習事項、背景知識、教科用語　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【系統性を重視した指導】

具体的な姿【高学年】

相手の意図を捉えながら、関わり合い、自分の考えを広げたり、深めたりする宇出津っ子。

具体的な姿【中学年】

自分の考えと相手の考えを比較しながら関わり合い、自分の考えを広げる宇出津っ子。

具体的な姿【低学年】

相手の考えを受け止めて聞き、自分の考えを伝える宇出津っ子。

**TALK「ING」話す・LISTEN「ING」聴く・READ「ING」読む・WRITE「ING」書く**

よりよく関わり合いながら、確かに学ぶ授業創り

～私には、伝えたいことがある！Let’s enjoy 「ING」～

【学校教育目標】

「本気で根気よく元気な心をもって学ぶ、心豊かにたくましい児童の育成」